

問1 2008年に発生した世界金融危機（リーマン・ショック）の影響により、日本の経済成長率の統計において、2009年度はマイナス5.7%という戦後最大の落ち込みを記録しました。この時、日本の景気が急速に悪化した直接的な背景として最も適切なものはどれですか。（2024年 千葉県公立入試 類似）

- 世界的な不況の影響で、自動車などの輸出が激減したため
- 消費税率が8%に引き上げられたことで、個人の消費支出が大幅に減少したため
- バブル経済の崩壊により、国内の不動産価格や株価が急落したため
- 原油価格が急騰したことで、企業の生産コストが大幅に上昇したため

問2 日本における唯一の中央銀行であり、一国の金融組織の中核を担う銀行を何といいますか。（2020年 山形県公立入試 類似）

- 日本銀行
- ゆうちょ銀行
- 信託銀行
- 日本政策金融公庫

問3 物価が上がり続けるイン플레이ションを抑制するために日本銀行が行う金融政策について、その仕組みと目的を説明した文として最も適切なものはどれですか。（2023年 熊本県公立入試 類似）

- 日本銀行が民間銀行に国債を売却することで市場の通貨量を減らし、金利を上昇させて景気の過熱を抑える。
- 日本銀行が民間銀行から国債を買い取ることで市場の通貨量を増やし、金利を低下させて消費を刺激する。
- 日本銀行が直接、企業の株や債券を売却することで通貨の価値を高め、輸入品の価格を下げる。
- 日本銀行が預金準備率を引き下げることで、民間銀行が企業へ貸し出せる資金を増やし、物価を安定させる。

問4 銀行は家計から預金として集めた資金を、資金を必要とする企業などに貸し出しています。このとき、銀行の主な収益源となる「利ざや」が発生する仕組みについて、正しく説明しているものはどれですか。（2024年 神奈川県公立入試 類似）

- 銀行が貸出先から受け取る貸出金利を、預金者に支払う預金金利よりも高く設定する。
- 銀行が預金者に支払う預金金利を、貸出先から受け取る貸出金利よりも高く設定する。
- 預金金利と貸出金利を同等に設定し、預金の総額が増えることによって利益を得る。
- 中央銀行から支払われる補助金を、預金者に利子として分配した残りを収益とする。

問5 不景気の際に日本銀行が行う金融政策のうち、一般の銀行から国債などを買い取る「買いオペレーション」の目的と仕組みを説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2023年 兵庫県公立入試 類似）

- 銀行が保有する資金量を増やし、貸し出し金利を下げることによって、企業への融資を促す。
- 銀行が保有する資金量を減らし、貸し出し金利を上げることによって、過剰な消費を抑える。
- 銀行が保有する資金量を増やし、預金金利を上げることで、個人の貯蓄を促進する。
- 銀行が保有する資金量を減らし、市場の通貨流通量を制限することで、物価の上昇を抑える。

問6 日本銀行が景気の安定を図るために行う「公開市場操作」について、景気の状態とそれに応じた日本銀行の行動の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2018年 高知公立入試 類似）

- 不景気の際、日本銀行が国債を買い入れて市場の通貨量を増やす。
- 不景気の際、日本銀行が国債を売却して市場の通貨量を減らす。
- 好景気の際、日本銀行が国債を買い入れて市場の通貨量を増やす。
- 好景気の際、日本銀行が政府に働きかけて減税を実施させ、通貨量を増やす。

問7 銀行、家計、企業の間で行われる資金のやり取りにおいて、銀行が果たす役割と「利子」の仕組みについての説明として最も適切なものはどれですか。（2024年 島根公立入試 類似）

- 家計が銀行へ預けた預金に対して、銀行は元本に利子を加えて払い戻し、企業への貸し出しに対しては元本と利子の返済を受ける。
- 銀行は企業から受け取った利子の全額を、手数料としてそのまま政府の財源に充てなければならない。
- 企業が銀行から借りた資金の対価として支払うのは「配当金」であり、これは企業の業績が悪化しても支払額が変わることはない。
- 家計は銀行に預金を行うことで、企業の経営に直接参加する権利を得る代わりに、利子を受け取ることができなくなる。

問8 現代の経済における資金調達の仕組みにおいて、「直接金融」の説明として最も適切なものはどれですか。（2021年 岐阜公立入試 類似）

- 企業が証券市場を通じて株式や債券を発行し、投資家から資金を調達する仕組み
- 銀行などの金融機関が預金者から集めた資金を、企業や個人に貸し出す仕組み
- 日本銀行が市中の資金量を調節するために、国債などを売買する仕組み
- 家計から出された預金が、金融機関の貸し出しを通じて社会全体の通貨量を増やす仕組み

答え合わせ・解説

問1	答え 1 世界的な不況の影響で、自動車などの輸出が激減したため	2008年にアメリカの金融機関の経営破綻をきっかけとして始まった世界金融危機は、世界的な規模で景気後退を引き起こしました。外需に大きく依存していた日本の製造業は、海外市場での需要減少によって輸出が激減し、その結果、2009年度に極端に低いマイナス成長を記録することとなりました。選択肢にある消費税率の引き上げによる影響は2014年、バブル経済の崩壊は1990年代初頭の出来事です。
問2	答え 1 日本銀行	中央銀行は、国の経済が安定するように通貨の量を調節したり、金融システムを維持したりする特別な役割を持つ銀行です。日本では日本銀行がその役割を担っており、一般の個人や企業が直接口座を作ってお金を預けることはできないという点が、民間の銀行（市中銀行）と大きく異なります。
問3	答え 1 日本銀行が民間銀行に国債を売却することで市場の通貨量を減らし、金利を上昇させて景気の過熱を抑える。	景気が過熱しているとき、日本銀行は保有する国債を民間銀行に売る「売りオペレーション」を行います。これにより、銀行の手元にある資金が日本銀行へ回収されるため、市場に出回る通貨量が減少します。資金が少なくなると金利が上がるため、企業や個人の借入れが抑制され、物価の上昇を抑えることにつながります。
問4	答え 1 銀行が貸出先から受け取る貸出金利を、預金者に支払う預金金利よりも高く設定する。	銀行は、資金が余っている家計などから「預金」を受け取り、その資金を必要としている企業などに「貸し出し」を行う金融仲介の役割を担っています。銀行の収益の柱は、貸し出した相手から受け取る利子（貸出金利）と、預金者に支払う利子（預金金利）の差額です。この差額を「利ざや」と呼び、銀行が安定して経営を行うためには、受け取る利子が支払う利子を上回っている必要があります。
問5	答え 1 銀行が保有する資金量を増やし、貸し出し金利を下げることによって、企業への融資を促す。	景気が停滞しているとき、日本銀行は市場に流通するお金の量を増やすために「買いオペレーション」を行います。日本銀行が民間の銀行から国債などを買い取ることで、銀行側が自由に使える資金が増えます。その結果、銀行は企業などへお金を貸し出しやすくなり、金利が低下することで経済活動を刺激する効果があります。
問6	答え 1 不景気のとき、日本銀行が国債を買い入れて市場の通貨量を増やす。	不景気のときには世の中にお金を流通させる必要があるため、日本銀行が国債を買って代金を市場に流す「買いオペレーション」が行われます。逆に、好景気で物価が上がりすぎるのを防ぐときは、国債を売って代金を回収する「売りオペレーション」が行われます。税金の増減は政府が行う財政政策であり、日本銀行が行う金融政策とは区別する必要があります。
問7	答え 1 家計が銀行へ預けた預金に対して、銀行は元本に利子を加えて払い戻し、企業への貸し出しに対しては元本と利子の返済を受ける。	銀行は、家計から預かった「預金」に対して利子を支払う一方で、企業への「貸し出し」の際にも利子を受け取ります。一般的に貸し出しの利率の方が預金の利率よりも高く設定されており、その差額が銀行の主な収益源となります。これにより、資金が余っている家計から資金を必要としている企業へと、効率的にお金が流れる仕組みが成り立っています。
問8	答え 1 企業が証券市場を通じて株式や債券を発行し、投資家から資金を調達する仕組み	直接金融は、資金の出し手（投資家）と借り手（企業など）が、証券市場を介して直接結びつのが特徴です。一方、銀行が間に入って預金者の資金を貸し出す形態は「間接金融」と呼ばれ、日本の資金調達において長く中心的な役割を果たしてきました。